

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツカ ^イ カ ^ク ホジ ^ン カ ^ワ カ ^ク 国立大学法人 香川大学								
フリガナ大学の名称	カ ^ワ カ ^ク カ ^ク カ ^ク カ ^ク 香川大学大学院 (Graduate School, University of Kagawa)								
大学本部の位置	高松市幸町1丁目1番								
大学の目的	世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。								
新設学部等の目的	子どもの発達に関する確かな知見、教育に関わる確かな専門性に立脚した分析力・構想力や、新しくかつ複合的な学校課題や教育課題を括り出して対象化し、協働的な実践・省察をもとに組織的に対応できる実践力を、教育実践現場をフィールドとした実践的研究による理論と実践の往還を通して育成し、教員集団と学校全体を質の高い組織として高めていくことに貢献できる教員を養成することをめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教職大学院
	教育学研究科 高度教職実践専攻 (教職大学院) 計	年	人	年次 人	人	教職修士 (専門職)	年 月 第 年次 平成28年4月 第1年次	高松市幸町1丁目1番	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	平成28年4月 大学院教育学研究科(修士課程)を次のとおり改組予定								
		(改組前)			(改組後)				
		教育学研究科 (修士課程)	入学定員		教育学研究科 (修士課程)	入学定員			
		学校教育専攻	6		学校教育専攻	12			
		特別支援教育専攻	9		教科教育専攻	18			
		教科教育専攻	27		学校臨床心理専攻	7			
		学校臨床心理専攻	9						
		計	51		計	37			
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学研究科 高度教職実践専攻	科目	科目	科目	科目	単位			
		0	31	17	48	46			

教	学 部 等 の 名 称	専任教員等					兼 任 教 員 等	
		教授	准教授	講師	助教	計		
新 設 分	教育学研究科 高度教職実践専攻 (教職大学院の課程)	7 (7)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
	計	7 (7)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	11 (11)
員	教育学研究科 学校教育専攻 (修士課程)	6 (6)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	特別支援教育専攻 (修士課程)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
組	教科教育専攻 (修士課程)	48 (48)	21 (21)	1 (1)	0 (0)	70 (70)	0 (0)	1 (1)
	学校臨床心理専攻 (修士課程)	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)
既	法学研究科 法律学専攻 (修士課程)	10 (10)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)
	経済学研究科 経済学専攻 (修士課程)	23 (23)	21 (21)	0 (0)	0 (0)	44 (44)	5 (5)	0 (0)
織	医学系研究科 看護学専攻 (修士課程)	11 (11)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	23 (23)	0 (0)	1 (1)
	機能構築医学専攻 (博士課程)	13 (13)	10 (10)	1 (1)	24 (24)	48 (48)	0 (0)	0 (0)
設	分子情報制御医学専攻 (博士課程)	15 (15)	13 (13)	0 (0)	30 (30)	58 (58)	0 (0)	7 (7)
	社会環境病態医学専攻 (博士課程)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	18 (19)	0 (0)	0 (0)
の	工学研究科 安全システム建設工学専攻 (博士前期課程)	7 (7)	4 (4)	2 (2)	4 (4)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	信頼性情報システム工学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	22 (22)	0 (0)	2 (2)
分	知能機械システム工学専攻 (博士前期課程)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	0 (0)
	材料創造工学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
概	安全システム建設工学専攻 (博士後期課程)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
	信頼性情報システム工学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	2 (2)
要	知能機械システム工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
	材料創造工学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
要	農学研究科 生物資源生産学専攻 (修士課程)	13 (13)	10 (10)	1 (1)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	0 (0)
	生物資源利用学専攻 (修士課程)	17 (17)	9 (9)	0 (0)	4 (4)	30 (30)	0 (0)	0 (0)
要	希少糖科学専攻 (修士課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	14 (14)
	地域マネジメント研究科 地域マネジメント専攻 (専門職学位課程)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
要	計	248 (186)	166 (166)	17 (17)	89 (89)	520 (520)	5 (5)	29 (29)
	合 計	256 (256)	173 (173)	17 (17)	89 (89)	535 (535)	5 (5)	40 (40)

教育学研究科(修士課程)の授業は、教育学部の教員が担当する。

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		338 人 (338)	329 人 (329)	667 人 (667)					
	技 術 職 員		825 (825)	332 (332)	1157 (1157)					
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)	0 (0)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		33 (33)	93 (93)	126 (126)					
	計		1,203 (1,203)	754 (754)	1,957 (1,957)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	160,903㎡	0 ㎡	0 ㎡	160,903㎡					
	運 動 場 用 地	85,925㎡	0 ㎡	0 ㎡	85,925㎡					
	小 計	246,828㎡	0 ㎡	0 ㎡	246,828㎡					
	そ の 他	703,927㎡	0 ㎡	0 ㎡	703,927㎡					
	合 計	950,755㎡	0 ㎡	0 ㎡	950,755㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		169,416㎡ (169,416㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	169,416㎡ (169,416㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	58室	131室	668室	10 室 (補助職員 0 人)	3 室 (補助職員 3 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		教育学研究科 高度教職実践専攻		13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位での 特定不能 なため、大 学全体の数		
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書]					点	点
	教育学研究科 高度教職実践専攻	873,080 [270,965]	30,440 [13,931]	7,539 [6,981]	9,358	0	1,033			
	計	873,080 [270,965]	30,440 [13,931]	7,539 [6,981]	9,358	0	1,033			
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		11,506㎡	835席		1,098,194冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		5,571㎡	運動場 5 面		テニスコート 14 面					
経 費 の 見 積 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		—	—	—	—	—	—	
		共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
		図 書 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
		設 備 購 入 費	—	—	—	—	—	—	—	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—							

既設大学等の状況	大学の名称		香川大学						所在地		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
	教育学部	年	人	年次 人	人		倍				
	学校教育教員養成課程	4	160	0	550	学士(教育学)	1.03	平成15年度	高松市幸町1番1号	平成27年度入学者増(30人) 平成27年度入学者減(△30人)	
	人間発達環境課程	4	40	0	250	学士(教養学)	1.01				
	計		200	0	800						
	法学部 (昼夜開講制)			3年次			1.02			上段は昼間コース、下段は、夜間主コース	
	法学科(昼)	4	150	10	620	学士(法学)	1.05	平成15年度	高松市幸町2番1号		
	(夜)		10	0	40		0.57				
	計		160	10	660						
	経済学部 (昼夜開講制)			3年次			1.01			上段は昼間コース、下段は、夜間主コース	
	経済学科(昼)	4	100	7	414	学士(経済学)	1.02	平成15年度	高松市幸町2番1号		
	(夜)		6	0	24		0.58				
	経営システム学科 (昼)	4	105	8	436		1.06				
	(夜)		8	0	32		0.53				
	地域社会システム学科 (昼)	4	75	5	310		1.04				
	(夜)		6	0	24		0.87				
	昼間コース計		280	20	1,160						
	夜間主コース計		20	0	80						
	計		300	20	1,240						
	医学部			2年次			1.00			6年制学科 4年制学科	
	医学科	6	109	5	674	学士(医学)	1.00	平成15年度	木田郡三木町大字池戸1750番地1		
	看護学科	4	60	10	260	学士(看護学)	1.00				
	計		169	15	934					平成21・22・24・25年度入学生定員増による学年進行	
	工学部			3年次			1.04			平成24年より学生募集停止	
	安全システム建設工学科	4	60	20	240	学士(工学)	1.03	平成15年度	高松市林町2217番地20		
	信頼性情報システム工学科	4	—		—			—			
	電子・情報工学科	4	80		320		1.01				
	知能機械システム工学科	4	60		40	240		1.06			
	材料創造工学科	4	60		240		1.06				
	計		260		20	1,080					
	農学部						1.05				
	応用生物科学科	4	150	0	600	学士(農学)	1.05	平成18年度	木田郡三木町大字池戸2393番地		
	計		150	0	600						

大学等の状況	大学の名称		香川大学大学院						
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
既設大学等の状況	教育学研究科								
	学校教育専攻	2	6	0	12	修士(教育学)	2.24	平成15年度	高松市幸町1番1号
	特別支援教育専攻	2及び3	7及び6	0	12		0.94	平成20年度	
	教科教育専攻	2	27	0	54		0.62	平成15年度	
	学校臨床心理専攻計	2	9	0	18		1.05		
	法学研究科								
	法律学専攻計	2	8	0	16	修士(法学)	0.50	平成15年度	高松市幸町2番1号
	経済学研究科								
	経済学専攻計	2	10	0	20	修士(経済学)	0.85	平成15年度	高松市幸町2番1号
	医学系研究科								
	看護学専攻	2	16	0	32	修士(看護学)	0.28	平成15年度	木田郡三木町大字池戸1750番地1
	機能構築医学専攻	4	8	0	32	博士(医学)	1.15		
分子情報制御医学専攻	4	18	0	72		1.02			
社会環境病態医学専攻計	4	4	0	16		1.06			
工学研究科									
安全システム建設工学専攻	2	18	0	36	修士(工学)	0.58	平成15年度	高松市林町2217番地20	
信頼性情報システム工学専攻	2	24	0	48		1.52			
知能機械システム工学専攻	2	18	0	36		1.72			
材料創造工学専攻	2	18	0	36		1.66			
安全システム建設工学専攻	3	5	0	15	博士(工学)	0.13	平成16年度		
信頼性情報システム工学専攻	3	7	0	21		0.04			
知能機械システム工学専攻	3	5	0	15		0.93			
材料創造工学専攻計	3	5	0	15		0.26			
農学研究科									
生物資源生産学専攻	2	25	0	50	修士(農学)	0.52	平成18年度	木田郡三木町大字池戸2393番地	
生物資源利用学専攻	2	25	0	50		1.30			
希少糖科学専攻計	2	10	0	20		0.80			
地域マネジメント研究科									
地域マネジメント専攻計	2	30	0	60	経営修士(専門職)	1.13	平成16年度	高松市幸町2番1号	
香川大学・愛媛大学連合法務研究科									
法務専攻計	3	—	—	—	法務博士(専門職)	—	平成16年度	高松市幸町2番1号	

平成27年度より学生募集停止

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：附属高松小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5-1-55 設置年月：昭和24年5月 規模等：7,374.7㎡、建物面積：4,077.59㎡</p>	
	<p>名称：附属坂出小学校 目的：児童の心身の発達に応じて、初等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5-1-55 所在地：香川県坂出市文京町2-4-2 設置年月：昭和24年5月 規模等：4,713.87㎡、建物面積：2,377.22㎡</p>	
	<p>名称：附属高松中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県高松市鹿角町394 設置年月：昭和26年6月 規模等：5,482.22㎡、建物面積：3,526.60㎡</p>	
	<p>名称：附属坂出中学校 目的：生徒の心身の発達に応じて、中等普通教育を行うことを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町1-7 設置年月：昭和24年5月 規模等：4,912.86㎡、建物面積：2,753.95㎡</p>	
	<p>名称：附属特別支援学校 目的：知的障害者に対して小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を行い、あわせてその能力に応じて社会的自立に必要な知識・技能を授けることを目的とするとともに、教育学部と一体となって、教育の理論及び実際に関する科学研究並びにその実証を行うことを目的とする。 所在地：香川県坂出市府中町綾坂889 設置年月：昭和50年4月 規模等：3,501.46㎡、建物面積：2,165.93㎡</p>	
	<p>名称：附属幼稚園 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県坂出市文京町1-9-4 設置年月：昭和24年5月 規模等：768.58㎡、建物面積：621.22㎡</p>	
	<p>名称：附属幼稚園高松園舎 目的：幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、学部・大学院等における研究に協力し、及び学部の計画に従い学生の教育実地研究実施にあたることを目的とする。 所在地：香川県高松市番町5-1-55 設置年月：昭和51年4月 規模等：431.8㎡、建物面積：431.8㎡</p>	
	<p>名称：附属教育実践総合センター 目的：教育実践とその研究との相関的・相乗的な発展充実を期し、地域社会の教育関係諸機関と連携を図りながら、附属学校園と一体になって教育実践に関する総合的な研究及び指導の推進を図ることを目的とする。 所在地：香川県高松市幸町1-1 設置年月：平成11年4月 規模等：539.09㎡、建物面積：182.37㎡</p>	
	<p>名称：特別支援教室「すばる」 目的：①発達障害児（特別な教育的支援を必要とする子ども）の保護者や担任に対する相談と指導助言、②発達障害児への個に応じた指導・支援、③保護者や教員、各学校の特別支援教育コーディネーターへの研修、④地域における特別支援教育の推進方策に関する研究など、これらの事業を通じて地域における特別支援教育の充実に寄与することを目的とする。 所在地：香川県坂出市青葉町2-7 設置年月：平成15年4月 規模等：742.21㎡、建物面積：385.42㎡</p>	

<p>附属学校の概要</p>	<p>名称：香川大学瀬戸内圏研究センター庵治マリンステーション 目的：瀬戸内圏研究の推進を行うとともに、学生の実験、実習指導を行うことを目的とする。</p>
	<p>所在地：香川県高松市庵治町鎌野4511-15 設置年月：平成21年4月 規模等：488.6㎡、建物面積：248.98㎡</p>
	<p>名称：香川大学総合生命科学研究センター R I 実験施設</p>
	<p>目的：放射性同位元素による実験・研究・教育を行うことを目的とする。 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1 設置年月：平成6年2月 規模等：423.9㎡、建物面積：148.13㎡</p>
	<p>名称：香川大学総合生命科学研究センター 動物実験施設</p>
	<p>目的：実験動物の飼育管理、系統維持、開発等を行う。 所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1 設置年月：昭和61年3月 規模等：2116.58㎡、建物面積：699.9㎡</p>
	<p>名称：香川大学総合生命科学研究センター 遺伝子実験施設</p>
	<p>目的：ゲノム情報科学、組換えDNA実験、その他の遺伝子実験に関する研究及び教育を行う。 所在地：香川県木田郡三木町池戸2393 設置年月：平成13年3月 規模等：1513.2㎡、建物面積：387.71㎡</p>
	<p>名称：香川大学希少糖研究センター 目的：生産方法、生理機能、用途などの研究がほとんど進んでいない「希少糖」に関する独自の研究を進展させるとともに、外部機関との共同研究を推進することにより、地域の科学技術の発展と産業の振興に寄与し、希少糖に関する情報の収集・発信及び教育研究の充実を目的とする。</p>
	<p>所在地：香川県木田郡三木町池戸2393 設置年月：平成15年10月 規模等：300.79㎡、建物面積：300.79㎡</p>
	<p>名称：香川大学図書館 目的：学部・研究科が集めた膨大な量の学術資料や研究成果を地域の生涯学習資料として公開することを目的とする。</p>
	<p>所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和45年3月 規模等：7301.09㎡、建物面積：1804.79㎡</p>
	<p>名称：香川大学博物館 目的：香川大学の教育・研究において蓄積された標本、資料、発明品などの知的財産を収集、保管、展示し、地域の自然や文化に関して交流を広げ、香川大学と地域との連携を深めることを目的とする。</p>
	<p>所在地：高松市幸町1-1 設置年月：平成20年3月 規模等：245.00㎡、建物面積：245.00㎡</p>
<p>名称：香川大学総合情報センター 目的：学内情報基盤担当組織の役割を担うと共に、先進的な教育・研究拠点として大学と地域社会に貢献することを目的とする。</p>	
<p>所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和49年3月 規模等：958.46㎡、建物面積：350.89㎡</p>	
<p>名称：香川大学保健管理センター 目的：学生及び教職員の心身の健康増進や健康管理を目的とする。</p>	
<p>所在地：高松市幸町1-1 設置年月：昭和43年3月 規模等：399.19㎡、建物面積：399.19㎡</p>	
<p>名称：香川大学医学部附属病院 目的：良質な医療の提供、医学教育・研究の推進</p>	
<p>所在地：香川県木田郡三木町池戸1750-1 設置年月：昭和58年4月 規模等：65,192.46㎡、建物面積：19,591.27㎡</p>	
<p>名称：香川大学農学部附属農場 目的：学生への農場実習教育と教職員の研究及び栽培された作物の市場での販売等経営を行うことを目的としている。</p>	
<p>所在地：さぬき市昭和字谷乙300番地2 設置年月：昭和44年3月 規模等：6,552.24㎡、建物面積：5,790.05㎡</p>	

別記様式第2号（その2の1）

教育課程等の概要															
(教育学研究科高度教職実践専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	基礎5領域	カリキュラム編成の理論と香川の教育	1	2			○		1	2				兼担1	共同
		教材研究・開発とICT活用による授業改善	1	2			○		1	1				兼担2	共同
		指導法分析と学習支援	1	2			○		1	1				兼担1	共同
		生徒指導と教育相談の理論と実際	1	2			○		1	2					共同
		道徳教育の実践研究	1	2			○		1	2					共同
		自律的学校経営と学校組織	1	2			○		2	1					共同
		学級経営実践研究	1	2			○		1	1				兼担1	共同
		開かれた学校づくりと校内支援体制	1	2			○		1	2					共同
		学校教育の役割と教員のライフステージ	1	2			○		3	1					共同
	小計（9科目）	—	18			—		5	5				兼担5	—	
	独自領域	発達支援を視点とした教育と医療	1	2			○		1	1				兼担1	分担
		教科学習でのつまずき・困難への指導	1	2			○		1	1				兼担3	分担
		発達と学力のアセスメント	1	2			○		1	1					分担
		小計（3科目）	—	6			—		2	1				兼担4	—
共通実習科目	学校臨床基礎実習Ⅰ	1	2				○	3	4					共同	
	学校臨床基礎実習Ⅱ	1	2				○	3	2					共同	
	小計（2科目）	—	4			—		3	4				0	—	
学校力開発領域科目	演習科目	学級経営・学年団経営の組織論	1・2	2			○		1	1				兼担1	共同
		校内研修と力量形成	1・2	2			○		2	1					共同
		道徳教育と学校経営実践研究	1・2	2			○		1	2				兼担1	共同
		学校改善とリーダーシップ	1・2	2			○		2	1					共同
		教職実践研究Ⅰ（学校力開発）	2	2			○		3	1					共同
		教職実践研究Ⅱ（学校力開発）	2	2			○		3	1					共同
	小計（6科目）	—	12			—		3	2				兼担2	—	
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ（学校力開発）	1	2				○	3	1					共同
		学校臨床実習Ⅱ（学校力開発）	1	2				○	3	1					共同
		探究実習（学校力開発）	2	2				○	3	3					共同
		学校力開発実習Ⅰ	2	2				○	3	1					共同
学校力開発実習Ⅱ		2	2				○	3	1					共同	
小計（5科目）	—	10			—		3	3				0	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
授業力開発領域科目	演習科目	子ども理解と学習指導	1・2	2			○		2	1					共同	
		授業研究の実際	1・2	2			○		2	2					共同	
		教材開発の理論と実践	1・2	2			○		2	2					共同	
		道徳授業の実践研究	1・2	2			○		0	3					共同	
		教科の本質と授業開発	1・2	2			○		1	1					共同	
		教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	2	2			○		2	5					共同	
		教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	2	2			○		2	5					共同	
	小計（7科目）	—		14			—		2	5				0	—	
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）	1	2				○	2	3					共同	
		学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）	1	2				○	2	3					共同	
		探究実習（授業力開発）	2	2				○	2	5					共同	
		授業力開発実習Ⅰ	2	2				○	2	3					共同	
		授業力開発実習Ⅱ	2	2				○	2	3					共同	
		小計（5科目）	—	10				—		2	5				0	—
特別支援教育コーディネーター領域科目	演習科目	心理検査の理論と実際	1	2			○		1	0				兼任1	共同	
		個別の指導計画と個に応じた支援	1	2			○		1	1					共同	
		行動困難と社会性の指導	1	2			○		1	1					分担	
		特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	1	2			○		1	1					共同	
		教職実践研究Ⅰ（特別支援教育）	2	2			○		2	2					共同	
		教職実践研究Ⅱ（特別支援教育）	2	2			○		2	2					共同	
		小計（6科目）	—		12			—		2	2				兼任1	—
	実習科目	学校臨床実習Ⅰ（特別支援教育）	1	2				○	2	2					共同	
		学校臨床実習Ⅱ（特別支援教育）	1	2				○	2	2					共同	
		探究実習（特別支援教育）	2	2				○	2	2					共同	
		特別支援教育指導実習Ⅰ	2	2				○	2	2				兼任1	共同	
		特別支援教育指導実習Ⅱ	2	2				○	2	2				兼任1	共同	
		小計（5科目）	—	10	0	0		—		2	2	0	0	0	兼任1	—
		合計（48科目）	—	34	62	0		—		7	8	0	0	0	兼任11	—
学位又は称号	教職修士（専門職）		学位又は学科の分野				教員養成関係									
修了要件及び履修方法							授業期間等									
共通科目6領域から最低1科目・2単位ずつ選択し、計20単位以上修得すること。実習以外の領域科目として、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ（4単位）を含み、所属するコースの領域から最低6科目・12単位を履修し、計16単位以上を修得すること。実習科目として、各コースの標準履修もしくは現職教員学生履修が定めるところの各科目10単位を修得すること。履修登録上限単位数は、年間50単位である。							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授業科目の概要			
(教育学研究科高度教職実践専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（基礎5領域） 教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラム編成の理論と香川の教育	<p>学習指導要領における教育課程の基準、編成・実施についての方針を再確認するとともに、近年の法整備や学校現場の状況を理解し、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について学修する。香川県の具体的な事例（小中一貫校、コミュニティースクール、研究開発校等）も取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについても学修する。なお、必要に応じて学校を訪問し、教育課程と教育実践の実際を参観する機会を授業に位置付ける。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>16. 山岸知幸/共同15回 ・教育課程の基準、編成・実施についての重要なポイントを再確認し、近年の法整備や学校現場の状況を理解し、特色ある学校づくりの基盤となるカリキュラムの基本的な理論について解説する。</p> <p>・10. 齋藤嘉則、12. 野村一夫、①. 松井保との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p> <p>10. 齋藤嘉則/共同11回 ・16. 山岸知幸、12. 野村一夫、①. 松井保との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p> <p>12. 野村一夫/共同10回 ・香川県の特色ある小学校のカリキュラムを取り上げて、その特色や教育計画を支える教育課程について解説する。その際に、関係する香川県の教育計画や施策についても開設する</p> <p>・16. 山岸知幸、10. 齋藤嘉則、①. 松井保との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p> <p>①. 松井保/共同10回 ・香川県の特色ある中学校のカリキュラムを取り上げて、その特色や教育計画を支える教育課程について解説する。その際に、関係する香川県の教育計画や施策についても開設する。</p> <p>・16. 山岸知幸、10. 齋藤嘉則、12. 野村一夫との共同により、香川県の具体的な事例を取り上げ、実際にカリキュラム開発を行う際の実践上のポイントや学校経営の視点から教員の意識・資質能力及び学校の組織づくりについて具体的に整理することを通して多面的に理解できるようにも演習を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（基礎5領域） 教科等の実践的な指導方法に関する領域	教材研究・開発とICT活用による授業改善	<p>「新しい学び」の視点に立った教材開発の考え方や技法（ICT活用を含む）を学び、学校現場の授業改善をリードしていくための資質能力を養うことを目的とする。新たな価値創造を担う次世代の日本の若者たちの育成は喫緊の課題である。高等学校教育にアクティブラーニングの普及は必至である。その基盤として、小中学校においても「新しい学び」を企図した授業を広めていかねばならない。基礎基本の習得を基盤に、学年段階に相応しい主体的な学習、グループ学習、協同学習を構想・実践・省察する力は、これからの教員に不可欠な資質能力である。これは、児童生徒の学習意欲を格段に高める方法ともなる。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>4. 野崎武司/共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10. 齋藤嘉則と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。新しい学びの考え方や教材開発演習、授業のユニバーサルデザインと教材開発演習、協同学習と教材開発演習、模擬授業実践と省察。 ・17. 宮崎英一と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。タブレット端末の授業活用法、タブレット端末を活用した授業開発演習。 ・18. 松下幸司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。電子黒板の授業活用法、教材開発を活用した授業開発演習。 <p>17. 宮崎英一/共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4. 野崎武司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。タブレット端末の授業活用法、タブレット端末を活用した授業開発演習。 <p>18. 松下幸司/共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4. 野崎武司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。電子黒板の授業活用法、教材開発を活用した授業開発演習。 <p>10. 齋藤嘉則/共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4. 野崎武司と共同で次のような学習活動（主にグループ演習）を行う。新しい学びの考え方や教材開発演習、授業のユニバーサルデザインと教材開発演習、協同学習と教材開発演習、模擬授業実践と省察。 	共同
	指導法分析と学習支援	<p>指導法と学習支援に関する専門性と実践力の向上を目的として、①子ども理解の理論と方法、②教授法や動機づけに関する理論と方法、③教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法、④教師行動の分析手法、そして、⑤授業研究や研究協議の理論と実践、等について学修する。そのために、講義形式を基本としながらも、テーマに応じてグループ学習や模擬授業を取り入れながら学ぶ。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>3. 有馬道久/共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19. 岡田 涼と共同で「子ども理解の理論と方法」「教授法や動機づけに関する理論と方法」「教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法」を担当する。 ・田崎伸一郎と共同で「教師行動の分析手法」「授業研究や研究協議の理論と実践」を担当する。 <p>19. 岡田 涼/共同10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3. 有馬道久と共同で「子ども理解の理論と方法」「教授法や動機づけに関する理論と方法」「教育評価や授業評価などの評価法に関する理論と方法」他を担当する。 <p>11. 田崎伸一郎/共同8回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3. 有馬道久と共同で「教師行動の分析手法」「授業研究や研究協議の理論と実践」を担当する。 	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（基礎5領域） 生地指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の理論と実際	<p>生徒指導と教育相談に関する理論を学び、実践事例を通じて理解を深める。まず、生徒指導の意義と役割を、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題を通じて学ぶ。次に、子どもの理解を深めることやカウンセリング（教育相談）について学習し、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について知る。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確実なものにする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 七條正典／単独3回、共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の意義と役割について解説する。 ・9. 山本木ノ実との共同により、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題について説明する。 ・7. 宮前義和、9. 山本木ノ実との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>7. 宮前義和／単独3回、共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を深めることやカウンセリング（教育相談）について解説する。 ・9. 山本木ノ実との共同により、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について説明する。 ・1. 七條正典、9. 山本木ノ実との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>9. 山本木ノ実／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1. 七條正典との共同により、いじめや不登校、非行等の個々の教育臨床的諸問題について説明する。 ・7. 宮前義和との共同により、教育相談を行う際のアセスメントの意義と活用について説明する。 ・1. 七條正典、7. 宮前義和との共同により、実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 	共同
	道徳教育の実践研究	<p>道徳教育の改革や社会のモラル低下等の背景を踏まえて、「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の改訂を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解する。さらに、学習指導要領の変遷を押さえるとともに、香川県道徳教育研究会等における実践の変遷を具体的な事例や資料を基に整理して理解する。その際に、道徳教育と学校教育目標や道徳の時間との関係について、単時間構想、繰り返し主題構想、大主題構想等の実践事例をもとに学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>8. 植田和也／共同14回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが生きる社会のモラルとマナーの低下に関して、各種の調査データや県教委が掲げる教育課題等と関連させながら解説したり、グループ討議を取り入れて背景について整理する。 ・学校教育目標と道徳教育目標の関連について、事例を示しながら、その実際について解説する。 ・道徳教育と道徳の時間について、全体計画や年間指導計画を比較しながら、その意義や活用等について解説する。 ・1. 七條正典、10. 齋藤嘉則と協働して、全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介するだけでなく、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。 <p>1. 七條正典／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の動向と課題、道徳教育の意義と役割について、過去の答申や学習指導要領改訂の動きを踏まえたうえで解説する。特に「特別の教科 道徳」に関する答申や学習指導要領の内容を確認しながら、道徳教育の意義と求められる役割並びに具体的な改善点等について理解できるように解説する。 ・8. 植田和也、10. 齋藤嘉則と協働して、全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介するだけでなく、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。 <p>10. 齋藤嘉則／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8. 植田和也、1. 七條正典と協働して、全体計画や年間指導計画の作成手順、香川県の多様な道徳教育の取組や変遷について紹介するだけでなく、各自の調べたことを発表させ、グループ討議を行い、意味づけや価値づけを行う。 	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 学級経営及び学校経営に関する領域	自律的学校経営と学校組織	<p>自律的学校経営の意義と必要性について具体的な事例をもとに理解する。小学校および中学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに理解する。組織マネジメントの考え方と組織マネジメントの実践について具体的な事例をもとに理解する。小学校および中学校での組織マネジメントを支えるために求められる教員の専門性について具体的な事例をもとに理解する。組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について具体的な事例をもとに理解する。 共同方式/全15回</p> <p>2. 柳澤良明/共同15回 ・自律的学校経営の意義と必要性について具体的な事例をもとに説明する。 ・組織マネジメントの考え方と組織マネジメントの実践について具体的な事例をもとに説明する。 ・12. 野村一夫および①. 松井保と協働して、受講生が収集した事例をもとに、組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について討議を行う。</p> <p>12. 野村一夫/共同10回 ・小学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに説明する。 ・小学校での組織マネジメントを支えるために求められる教員の専門性について具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について討議を行う。</p> <p>①. 松井保/共同10回 ・中学校が有している学校組織の特性について具体的な事例をもとに説明する。 ・中学校での組織マネジメントを支えるために求められる教員の専門性について具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、組織マネジメントの考え方を取り入れた協働の在り方について討議を行う。</p>	共同
	学級経営実践研究	<p>学級経営の目的と方法を踏まえ、学級集団の理解とその中での個々の成長発達を視野に入れた準拠集団の形成過程について理解する。また、学級経営の在り方について実践事例を基に検証するとともに、その評価についても検討する。さらに、学級における危機管理の在り方を実践的な視点から考察する。 共同方式/全15回</p> <p>20. 毛利猛/共同8回 ・学級経営の意義や目的について解説する。学級経営の内容や指導の方法について解説する。 ・1. 七條正典、8. 植田和也と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。</p> <p>1. 七條正典/共同11回 ・学級集団の理解とその中での個々の成長発達を視野に入れた準拠集団の形成過程について解説する。また、学級経営の評価について、実践事例をもとに検討する。 ・20. 毛利猛、8. 植田和也と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。</p> <p>8. 植田和也/共同15回 ・学級経営における危機管理の在り方について、実践的な視点から考察する。 ・20. 毛利猛、1. 七條正典と協働して、実践事例を基に、学級経営の在り方について討議し検討する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（基礎5領域） 学校教育と教員の在り方に関する領域	開かれた学校づくりと校内支援体制	<p>開かれた学校づくりが求められる背景および理由について理解する。学校が取り組むべき課題について日本の学校教育の歴史的展開をもとに理解する。学校評議員制度および学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のしくみを理解するとともに、これらの取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに理解する。学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに理解する。開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりおよびその実践課題について具体的な事例をもとに理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 柳澤良明／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりが求められる背景および理由について説明する。 学校が取り組むべき課題について日本の学校教育の歴史的展開をもとに説明する。 学校評議員制度および学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）のしくみを理解するとともに、これらの取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明する。 7. 宮前義和および10. 齋藤嘉則と協働して、受講生が収集した事例をもとに、学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 <p>7. 宮前義和／共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明する。 2. 柳澤良明および10. 齋藤嘉則と協働して、受講生が収集した事例をもとに、学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 <p>10. 齋藤嘉則／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりを支える校内支援体制づくりおよびその実践課題について具体的な事例をもとに説明する。 2. 柳澤良明および7. 宮前義和と協働して、受講生が収集した事例をもとに、学校支援ボランティアによる取り組みおよびその実践課題について具体的な事例をもとに討議を行う。 	共同
	学校教育の役割と教員のライフステージ	<p>学校教育と教員のあり方について、①香川県の学校教育の役割と課題、②新しい学力観、③児童生徒の自尊感情の育成、④教員としてのライフステージの形成、等について学修する。そのために、講義形式を基本としながらも、テーマに応じてグループ学習や模擬授業を取り入れながら学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>3. 有馬道久／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> 4. 野崎武司と共同で「児童生徒の自尊感情の育成」「学力観の変遷と教師のあり方」他を担当する。 12. 野村一夫と共同で「香川県の学校教育の役割と課題」「児童生徒の自尊感情の育成」他を担当する。 ①. 松井 保と共同で「児童生徒の自尊感情の育成」「教員としてのライフステージの形成」他を担当する。 <p>4. 野崎武司／共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 有馬道久と共同で「児童生徒の自尊感情の育成」「学力観の変遷と教師のあり方」他を担当する。 <p>12. 野村一夫／共同6回</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 有馬道久と共同で「香川県の学校教育の役割と課題」「児童生徒の自尊感情の育成」他を担当する。 <p>①. 松井 保／共同7回</p> <ul style="list-style-type: none"> 3. 有馬道久と共同で「児童生徒の自尊感情の育成」「教員としてのライフステージの形成」他を担当する。 	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (独自領域)	通常学級における特別支援教育に関する領域 発達支援を視点とした教育と医療	<p>発達支援の視点について学び、発達支援に基づく教育と医療のあり方について理解を深める。発達の普遍性と個別性を理解することを基盤に置きながら、発達障害の特徴について理解する。メインテーマは、人間発達を踏まえたうえで、特別支援教育の来るべきシステムについて考えることである。サブテーマとして、特別な教育的ニーズのある子どもに対する支援方法、発達障害に対する医療の役割、特別支援教育における教育と医療の連携について学ぶ。</p> <p>分担方式／全15回</p> <p>6. 惠羅修吉／共同10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達支援に関して理論的な説明をし、発達の普遍性と個別性について最近の知見を紹介する。 ・9. 山本木ノ実と協働して教育支援のあり方についてグループディスカッションを行う。 <p>9. 山本木ノ実／共同10回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育のシステムについて解説し、今後の方向性について考えるための材料を提供する。 ・教育支援のあり方と手順について実践事例を紹介し、ディスカッションを通して理解を促す。 ・教育と医療の連携のあり方について、教育の立場より解説する。 ・6. 惠羅修吉と協働して教育支援のあり方についてグループディスカッションを行う。 <p>21. 西田智子／単独5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害に対する医療の概要と役割について説明する。 ・教育と医療の連携のあり方について、医療の立場より解説する。 	分担

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目（独自領域） 通常学級における特別支援教育に関する領域	教科学習でのつまずき・困難への指導	<p>発達障害児が示す学習の困難とそれに対する指導法について理解する。音声言語学の基礎から、言語・コミュニケーションの発達とその困難、支援の観点と方法について理解する。国語科教育学の視点より、日本語の文字体系に関する理解を基盤として、読み書き困難と原因に応じた指導方法について理解する。数学科教育学の視点より、基本的数処理・数概念のつまずき、四則演算や筆算、文章題の指導などに関して理解する。保健体育科教育学の視点より、感覚運動機能、姿勢やバランスの保持、協調運動や運動企画の困難とそれらの指導に関して理解する。 分担方式／全15回</p> <p>5. 武蔵博文／単独2回、共同3回 ・個の特性に応じた支援の必要性、通常の学級の現状と、教科学習の場面で生じる学習面・行動面のつまずきについて説明する。 ・言語・コミュニケーションの発達と発達障害児にみられる「聞く・話す」の困難について説明する。音素・音韻意識、聴覚認知と注意、ワーキングメモリの関係について解説する。聴覚認知と読み書き障害との関係、ことばの語用論的側面と語用能力障害について説明する。</p> <p>9. 山本木ノ実と協働して、つまずきの特性に応じた指導プログラム、指導事例、プログラムや指導教材の作成の方法について演習及び討議を行う。</p> <p>22. 佐藤明宏／単独2回、共同2回 ・国語科教育学の視点より、教科学習の際にみられる「読む・書く」の困難、読み書き能力の評価方法、読み書きのつまずきの原因と原因に応じた指導方法及び指導教材について解説する。指導の実際について具体例をあげながら説明する。</p> <p>9. 山本木ノ実と協働して、つまずきの特性に応じた指導プログラム、指導事例、プログラムや指導教材の作成の方法について演習及び討議を行う。</p> <p>23. 長谷川順一／単独2回、共同1回 ・数学科教育学の視点より、教科学習の際にみられる「計算する・推論する」の困難、数概念・演算・文章題の評価、それらのつまずきの原因と原因に応じた指導方法及び指導教材について解説する。指導の実際について具体例をあげながら説明する。</p> <p>9. 山本木ノ実と協働して、つまずきの特性に応じた指導プログラム、指導事例、プログラムや指導教材の作成の方法について演習及び討議を行う。</p> <p>24. 米村耕平／単独2回、共同1回 ・保健体育科教育学の視点より、発達障害児にみられる感覚運動機能のつまずきについて、観察の視点と方法、つまずきの要因の分析、体育の授業や学校生活への影響について解説する。感覚運動面の指導を通して、感覚刺激の受容を促進し、適応反応としての運動反応を引き出すことを説明する。</p> <p>9. 山本木ノ実と協働して、つまずきの特性に応じた指導プログラム、指導事例、プログラムや指導教材の作成の方法について演習及び討議を行う。</p> <p>9. 山本木ノ実／共同7回 ・個の特性に応じた支援の必要性、通常の学級の現状と、教科学習の場面で生じる学習面・行動面のつまずきについて説明する。 ・5. 武蔵博文、22. 佐藤明宏、23. 長谷川順一、24. 米村耕平と協働して、つまずきの特性に応じた指導プログラム、指導事例、プログラムや指導教材の作成の方法について演習及び討議を行う。</p>	分担

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 (独自領域)	通常学級における特別支援教育に関する領域 発達と学力のアセスメント	<p>通常の学級における特別支援教育のためのアセスメントの意義と目的について理解することを目的とする。子どもの実態および状態把握の方法として、面接、行動観察、質問紙法、心理検査の各方法について理解する。特に、発達障害における認知特性の評価について理解するとともに、基本的な学習能力と学力のつまずきに関する評価に焦点を当てる。通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズがある児童生徒への包括的な支援に必要な総合的解釈について学ぶ。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>6. 惠羅修吉／共同15回 ・通常の学級における特別支援教育において必要な心理アセスメントの基礎知識を説明する。 ・学力の状態把握、特に、学習の基礎力のアセスメント（音韻意識、かな読み、漢字読み、書字、数概念、数操作、数的思考等）について、具体的な方法と留意点について解説する。 ・9. 山本木ノ実と協働して実例をあげてグループ演習を行う。</p> <p>9. 山本木ノ実／共同15回 ・通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズがある児童生徒への包括的な支援のあり方について説明する。 ・アセスメント結果を解釈して、個別の指導計画にする過程について説明する。 ・6. 惠羅修吉と協働して実例をあげてグループ演習を行う。</p>	分担
共通する実習科目	学校臨床基礎実習Ⅰ	<p>連携協力校（主に附属学校）において、学校経営・学級経営・授業経営等の視点から観察実習やシャドウイングを通して、学校教育における課題の現状を把握する。把握した課題に基づいて、課題解決プランの作成に向けた予備的試行実践を行う（課題解決のため、集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある）。予備的試行実践の結果を省察し、実践課題の明確化を図る。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>巡回指導：1. 七條正典、4. 野崎武司、11. 田崎伸一郎、12. 野村一夫、①. 松井保、14. 橘慎二郎、15. 清水颯人</p>	共同
	学校臨床基礎実習Ⅱ	<p>連携協力校（主に公立学校）における教育課題の現状について理解を深めるとともに、「学校臨床基礎実習Ⅰ」で予備的に試行実践した課題解決方法に基づいて、連携協力校（主に公立学校）においてさらに試行実践を行い検討する（課題解決のため、集中的な関わりが必要な場合、一部集中実習を組み込む場合がある）。PDCAサイクルによって、課題解決方法の改善点の分析を行う。</p> <p>巡回指導：1. 七條正典、4. 野崎武司、11. 田崎伸一郎、12. 野村一夫、①. 松井保</p>	共同
コース科目	学校力開発コース 学級経営・学年団経営の組織論	<p>学校教育目標の具現化と学年団経営・学級経営とのつながりについて具体事例を基に検証し、学校教育目標の達成につながる学年団経営・学級経営(案)を協働で作成する。いくつかの教育課題を取り上げ、その解決につながる学級経営・学年団経営の実践事例についてグループで検証し、自らの課題の達成につながる学級経営・学年団経営案を構想する。また、評価検証の在り方についての理解を深める。課題グループ別に協働活動を組織するとともに、個別の課題設定に応じた活動を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 七條正典／共同13回 ・学校教育目標の具現化と学年団経営・学級経営とのつながりについて解説する。</p> <p>20. 毛利猛／共同11回 ・今日的な教育課題の解決につながる学年団経営・学級経営について解説する。</p> <p>8. 植田和也／共同15回 ・自らの課題の解決につながる学年団経営・学級経営の在り方について解説する。 ・1. 七條正典、20. 毛利猛、8. 植田和也と協働して、学校教育目標・様々な教育課題・自己課題の達成や解決につながる学年団経営・学級経営の作成、及び実践事例の検討をグループで行い、学年団経営・学級経営の在り方についての理解を深める。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	校内研修と力量形成	<p>日本の教員研修のしくみと特質について具体的な事例をもとに理解する。学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに理解する。個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに理解する。小学校教員および中学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例をもとに理解する。小学校教員および中学校教員の力量形成について具体的な事例をもとに理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>2. 柳澤良明／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の教員研修のしくみと特質について具体的な事例をもとに説明する。 ・学校ビジョンを実現するために求められる校内研修の在り方について具体的な事例をもとに説明する。 ・12. 野村一夫および①. 松井保と協働して、受講生が収集した事例をもとに、個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修および授業研究の在り方について討議を行う。 <p>12. 野村一夫／共同11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例について説明する。 ・小学校教員の力量形成について具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修および授業研究の在り方について討議を行う。 <p>①. 松井保／共同11回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員の専門性を高める校内研修および授業研究の在り方について具体的な事例について説明する。 ・中学校教員の力量形成について具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、個別学校が抱える教育課題に対応できる力量を形成することのできる校内研修および授業研究の在り方について討議を行う。 	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	道徳教育と学校経営実践研究	<p>道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力や推進体制の重要性について理解する。また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>8. 植田和也／共同12回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進の具体的な課題を整理するとともに、推進体制の重要性について解説する。各自の調べてきた推進体制や事例について、グループ討議を取り入れて整理する。 ・学校経営と道徳教育目標の関連について、管理職や道徳教育推進教師など、各々の立場から事例を示しながら、その実際について解説する。 ・1. 七條正典、①. 松井保と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。 <p>1. 七條正典／共同13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育を効果的に機能させるための管理職や道徳教育推進教師や学年団主任等に求められるマネジメント能力に関して、実践事例をもとに改訂の動きを踏まえうえて解説する。特に推進体制の構築や推進教師の役割についても具体的な事例を参考にしながら、演習を取り入れて手順やポイントを理解できるように解説する。 ・8. 植田和也、①. 松井保と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。 <p>25. 櫻井佳樹／単独1回、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に多様に定められている目標の意義や理解について解説する。 <p>①. 松井保／共同13回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営の事例を示しながら、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制について紹介する。また、学校経営における定められている願いと道徳教育のねらいとの関係について具体的な取り組み事例をもとに解説する。 ・8. 植田和也、1. 七條正典と協働して、また、学校の教育活動全体で取り組むべき道徳教育推進体制の整備について、演習等を取り入れながら具体的な道徳教育推進プラン作成を行う。さらに、地域の特色を生かした道徳教育の取り組みを紹介するとともに、郷土の先人やふるさと学習（空海、平賀源内等）を取り入れた事例とその推進のための多様な方法について理解する。 	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	学校改善とリーダーシップ	<p>組織としての学校に求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに理解する。学校改善の事例を分析するとともに、学校改善を実践するために求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに理解する。効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件について具体的な事例をもとに理解する。スクールリーダーおよびミドルリーダーに求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに理解する。 共同方式／全15回</p> <p>2. 柳澤良明／共同15回 ・組織としての学校に求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明する。 ・学校改善の事例を分析するとともに、学校改善を実践するために求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明する。 ・12. 野村一夫および①. 松井保と協働して、受講生が収集した事例をもとに、効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件について討議を行う。</p> <p>12. 野村一夫／共同11回 ・小学校におけるスクールリーダーおよびミドルリーダーに求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件について討議を行う。</p> <p>①. 松井保／共同11回 ・中学校におけるスクールリーダーおよびミドルリーダーに求められるリーダーシップについて具体的な事例をもとに説明する。 ・2. 柳澤良明と協働して、受講生が収集した事例をもとに、効果的な学校を実現するために求められる諸条件および組織としての学校の観点から捉えた際の諸条件について討議を行う。</p>	共同
	教職実践研究Ⅰ（学校力開発）	<p>主に、実習科目における学校経営・学級経営に関する実践と学校力開発コースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。学校力開発に関わる各自の実践課題について、複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。先進的な取組をしている学校を訪問し、その取組内容を理論的に分析した上で、各自の課題の明確化を図る。実習を通して随時、グループまたは個別の理論的分析と省察を行い、実践課題や実習の取り組みについての見直しを行う。第3回および第14回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。 共同方式／全15回</p> <p>1. 七條正典、2. 柳澤良明、12. 野村一夫、①. 松井保／共同15回 ・初回のオリエンテーションにおいて、専攻全体で、各自の実践課題、前期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実習計画等の確認を行う。 ・先進校を訪問し、その取り組み内容についてのリフレクションにより課題の明確化を図る。 ・実習の事前事後における協議を通して、課題解決につながる実践計画の見直しを立てる。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・前期の学びを総括し、後期の実践課題についての改善プログラムを作成する。 ・最終回に、専攻全体で、各自の実践の経過、前期実習のまとめについて交流する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 学校力開発コース	教職実践研究Ⅱ（学校力開発）	<p>主に、実習科目における学校経営・学級経営に関する実践と学校力開発コースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。学校力開発に関わる各自の実践課題について、複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。前期に作成した学校力開発に関わる各自の実践課題についての改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。実践についての定期的な理論的分析と省察を通して、課題や実施内容の修正を行う。その成果は、中間まとめと最終まとめとして専攻全体の発表会で報告し、最終的には教職実践研究報告としてまとめる。教職実践研究フォーラムへの準備を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>1. 七條正典、2. 柳澤良明、12. 野村一夫、①. 松井保／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいては、専攻全体で、各自の実践課題、後期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実施計画等の確認を行う。 ・前期で作成した改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。 ・実践についての定期的な振り返りを通して、課題や実施内容の修正を行う。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・後期の学びを総括し、教職実践研究報告のまとめにつなげる。 ・中間まとめとして、専攻全体で、各自の教職実践研究報告の内容や進行状況について交流する。 ・最終まとめとして、専攻全体で、各自の実践の経過、後期実習のまとめ、教職実践研究報告について交流する。実践研究フォーラムへの準備を行う。 	共同
	学校臨床実習Ⅰ（学校力開発）	<p>現代的な学校課題をテーマに、教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校力開発に資する先進的な取組を行っている学校を訪問し、「学校力」を焦点とした課題解決プランを収集、分析する。模擬的に各自が作成した学校力開発の課題解決プランを研究協力校（置籍校）において提示し、意見交換を行う。これまでの学びや臨床経験、試行実践を踏まえ、課題の解決につながるプランを開発する基礎的な力量の形成を図る。</p> <p>巡回指導：2. 柳澤良明、1. 七條正典、12. 野村一夫、①. 松井保</p>	共同
	学校臨床実習Ⅱ（学校力開発）	<p>現代的な学校課題をテーマに、教育現場を臨床的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校臨床実習Ⅰに引き続き、課題解決プランを収集、分析し、模擬的な学校力開発の課題解決プランに関して議論を深める。これまでの学びや臨床経験、試行実践を踏まえ、課題の解決につながるプランを開発する基礎的な力量の形成を図る。</p> <p>巡回指導：2. 柳澤良明、1. 七條正典、12. 野村一夫、①. 松井保</p>	共同
	探究実習（学校力開発）	<p>附属学校において集中型実習として履修する。研究推進校特有の学校経営上の諸課題を理解し、効果的な学校経営のノウハウを学び、校務分掌等に効果的に参画する。また附属学校教員の指導の観察実習を通して、配属の学部生の校務分掌への効果的な参画について支援する。スクールリーダーあるいはミドルリーダーとしての役割を意識するとともに、初任者や若年教員を育てる指導の在り方や方法を探究する。</p> <p>巡回指導：2. 柳澤良明、1. 七條正典、12. 野村一夫、①. 松井保、14. 橘慎二郎、15. 清水顕人</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目	学校力開発コース	<p>主に置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。学校力開発に資する先進的な取組を行っている学校への訪問による新たな知見や、置籍校の学校課題の検討を踏まえ、学校経営・学級経営等の「学校力」を焦点とした各自の課題解決プランを作成する。各自が作成した学校力開発の課題解決プランを置籍校において試行実践し、その実践記録を基に省察を行う。これまでの学びや臨床経験、試行実践を踏まえ、課題の解決につながるプランとなるよう改善を図る。</p> <p>巡回指導：1. 七條正典、2. 柳澤良明、12. 野村一夫、①. 松井保</p>	共同
		<p>置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。学校力開発実習Ⅰの実践を通して改善した課題解決プランに即して、置籍校において課題解決のための取り組みを行い、その実践の結果について、実践記録を分析・整理し、評価する。その結果をまとめ、研究報告につなげる。</p> <p>巡回指導：1. 七條正典、2. 柳澤良明、12. 野村一夫、①. 松井保</p>	共同
コース科目	授業力開発コース	<p>この授業では、教師用RCRT法という心理学の手法を用いて、受講生一人ひとりの子どもをとらえる独自で無自覚の認知枠を明らかにする。そして、その認知枠を用いて学級全体の子ども認知図を作成し、子ども理解を深めるとともに、授業構想に活かす手立てを探る。授業は、演習形式で進める。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>3. 有馬道久、4. 野崎武司、8. 植田和也／共同15回</p> <p>最初に、子ども理解の視点と方法について解説した後、教師用RCRT法の概要の説明と適応事例の紹介を行う。以後、受講生ごとに教師用RCRT法の因子分析と解釈、ついで子ども認知図の作成と見方について解説し、実施報告書としてまとめるよう指導する。最後に、授業構想への活用について、構想の作成、試行、省察を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 授業力開発コース	授業研究の実際	<p>授業研究の基本的な考え方を理解し、校内において効果的な授業研究を実践的に組織していくための資質能力を養うことを目的とする。授業研究を学ぶにあたり、質の高い授業実践記録の読解は不可欠である。それは、授業カンファレンスのプロセスを含めた自らの授業実践記録の作成へとつながるものでなければならない。ここでは、同一単元での授業デザイン・模擬授業・省察のグループ演習を柱にした授業実践記録の作成を主課題とする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>4. 野崎武司／共同15回 ・3. 有馬道久と共同で、主に下記の学習活動を行う。授業カンファレンスの意義と方法、授業実践記録の読解、授業実践記録の方法、授業研究コミュニティの構築の実践事例研究。 ・3. 有馬道久、8. 植田和也、11. 田崎伸一郎と共同で、主に次の学習活動を行う。同一単元での授業デザイン、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p> <p>3. 有馬道久／共同15回 ・4. 野崎武司と共同で、主に下記の学習活動を行う。授業カンファレンスの意義と方法、授業実践記録の読解、授業実践記録の方法、授業研究コミュニティの構築の実践事例研究。 ・4. 野崎武司、8. 植田和也、11. 田崎伸一郎と共同で、主に次の学習活動を行う。同一単元での授業デザイン、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p> <p>8. 植田和也／共同10回 ・4. 野崎武司、3. 有馬道久、11. 田崎伸一郎と共同で、主に次の学習活動を行う。同一単元での授業デザイン、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p> <p>11. 田崎伸一郎／共同10回 ・4. 野崎武司、3. 有馬道久、8. 植田和也と共同で、主に次の学習活動を行う。同一単元での授業デザイン、模擬授業と省察のグループ演習、授業実践記録の作成。</p>	共同
	教材開発の理論と実践	<p>「新しい学び」の視点に立った教材開発の考え方や技法を学び、子どもの学習意欲と主体性を引き出す授業開発のための資質能力を養うことを目的とする。授業のユニバーサルデザイン、教えて考えさせる授業、協同学習等の授業実践例から、教材開発のための基本的な考え方を学ぶ。複数教科書の比較分析、教科書教材のさらなる教材化などの基礎的な共通演習をもとに、教材開発・模擬授業・省察のグループ演習を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>4. 野崎武司／共同15回 ・3. 有馬道久と共同で、主に次の学習活動を行う。教材開発の共通演習（教科書教材の比較・教科書教材の教材化）、授業のユニバーサルデザイン論と教材開発演習、「教えて考えさせる授業」論と教材開発演習、協同学習論と教材開発演習。 ・3. 有馬道久、10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎との共同で、「新しい学び」の授業実践研究を行う。各グループが選択し、開発した教材に基づいて、模擬授業・省察のグループ演習を行う。</p> <p>3. 有馬道久／共同15回 ・4. 野崎武司と共同で、主に次の学習活動を行う。教材開発の共通演習（教科書教材の比較・教科書教材の教材化）、授業のユニバーサルデザイン論と教材開発演習、「教えて考えさせる授業」論と教材開発演習、協同学習論と教材開発演習。 ・4. 野崎武司、10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎との共同で、「新しい学び」の授業実践研究を行う。各グループが選択し、開発した教材に基づいて、模擬授業・省察のグループ演習を行う。</p> <p>10. 齋藤嘉則／共同8回 ・4. 野崎武司、3. 有馬道久、11. 田崎伸一郎との共同で、「新しい学び」の授業実践研究を行う。各グループが選択し、開発した教材に基づいて、模擬授業・省察のグループ演習を行う。</p> <p>11. 田崎伸一郎／共同8回 ・4. 野崎武司、3. 有馬道久、10. 齋藤嘉則との共同で、「新しい学び」の授業実践研究を行う。各グループが選択し、開発した教材に基づいて、模擬授業・省察のグループ演習を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 授業力開発コース	道徳授業の実践研究	<p>道徳授業の形骸化や画一化と言われる背景や子どもたちにとって魅力となる道徳授業の要因を理解するとともに、実践事例等を通して多様な方法の長所や配慮すべき点を検討する。また、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。さらに、道徳性の発達理論を理解するとともに、評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきか検討する。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>8. 植田和也／共同14回 ・小学校の実践事例等を通して多様な道徳授業の方法の長所や配慮すべき点を検討する。 ・様々な道徳性の発達理論を解説するとともに、評価に関する課題や具体的な取り組みの事例等をもとに、学校現場においてどのように取り組んでいくべきか検討する。必要に応じて、小中学校の授業研修会に参加して、具体的な指導方法や授業後の協議方法に評価をどのように生かすか等についても実践的な学ぶ場を用意する。</p> <p>・10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎との共同で、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。</p> <p>10. 齋藤嘉則／共同15回 ・中学校の実践事例等を通して多様な道徳授業の方法の長所や配慮すべき点を検討する。</p> <p>・8. 植田和也、11. 田崎伸一郎との共同で、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。</p> <p>11. 田崎伸一郎／共同11回 ・8. 植田和也、10. 齋藤嘉則との共同で、「私たちの道徳」や読み物資料、映像資料の特徴と効果的活用や資料分析と授業づくりについて演習を通して理解する。</p>	共同
	教科の本質と授業開発	<p>これまで教科教育は、学校教育の大きな柱であった。しかし現代社会が抱える諸問題は、教科というカテゴリーを超えて、絶えず新たな様相を呈してきている。しかし、児童・生徒にとって、複雑で複合的な諸問題に直接対峙することは難しい。広い視野で世界を捉え、考察していくためには、教科の本質に基づいた系統的な積み上げは不可欠である。ここに、教科教育、新しい学び、総合的な学習の時間などをトータルに考察しなければならない必然性がある。これまで教科教育研究は、それぞれに分立し、学校教育の現代的課題に則して自らの姿を捉え直す視点に欠けていたのではないか。本授業は、学校教育の現代的課題に則して、教科教育を大きく振り返り、各教科において「新しい学び」の可能性を拓く視野を培うことを目的とする。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>4. 野崎武司／共同15回 ・8. 植田和也との共同で、学校教育の現代的課題と教科教育に関わる問題提起を行う。各教科毎にグループを編成し、教科の本質論と新しい学びの可能性、教科教育と総合的な学習をつなぐ可能性に関する演習を行う。</p> <p>・各教科教育担当教員と8. 植田和也との共同で、主に次の学習活動を行う。各教科の本質論、各教科の教育論争、新しい学びとこれからの教科教育、授業構想・模擬授業・省察のグループ演習。</p> <p>8. 植田和也／共同15回 ・4. 野崎武司との共同で、学校教育の現代的課題と教科教育に関わる問題提起を行う。各教科毎にグループを編成し、教科の本質論と新しい学びの可能性、教科教育と総合的な学習をつなぐ可能性に関する演習を行う。</p> <p>・各教科教育担当教員と8. 植田和也との共同で、主に次の学習活動を行う。各教科の本質論、各教科の教育論争、新しい学びとこれからの教科教育、授業構想・模擬授業・省察のグループ演習。</p> <p>各教科教育担当協力教員／共同12回 ・4. 野崎武司と8. 植田和也との共同で、主に次の学習活動を行う。各教科の本質論、各教科の教育論争、新しい学びとこれからの教科教育、授業構想・模擬授業・省察のグループ演習。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 授業力開発コース	教職実践研究Ⅰ（授業力開発）	<p>主に、実習科目における授業実践と授業力開発コースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>3. 有馬道久、4. 野崎武司、8. 植田和也、10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎、14. 橋慎二郎、15. 清水顕人／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいて、専攻全体で、各自の実践課題、前期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実習計画等の確認を行う。 ・授業観察や授業実習の後のリフレクションを通して課題の明確化を図る。 ・実践記録を基に、実習の事前事後における協議を通して、課題解決につながる実践計画の見通しを立てる。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・前期の学びを総括し、後期の実践課題についての改善プログラムを作成する。 ・最終回に、専攻全体で、各自の実践の経過、前期実習のまとめについて交流する。 	共同
	教職実践研究Ⅱ（授業力開発）	<p>主に、実習科目における授業実践とその省察に関わる各自の実践課題を整理し、課題解決のための探究を行う授業科目である。複数の教員が協働して個々の学生の指導に当たる。学校における授業観察や授業実習の後の理論的分析と省察を通して協議・検討し各自の課題の明確化を図る。実践記録を基に、各自の課題に即した学校現場での実習の事前事後の学びを通して課題の解決につながる実践計画への見通しを持てるようにする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、後期の実習のまとめを行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>3. 有馬道久、4. 野崎武司、8. 植田和也、10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎、14. 橋慎二郎、15. 清水顕人／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいては、専攻全体で、各自の実践課題、後期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実施計画等の確認を行う。 ・前期で作成した改善プログラムの実施に関して、実施計画を確認する。 ・実践についての定期的な振り返りを通して、課題や実施内容の修正を行う。 ・課題別グループによる協働活動及び個別の課題設定に応じた活動を行う。 ・後期の学びを総括し、教職実践研究報告のまとめにつなげる。 ・中間まとめとして、専攻全体で、各自の教職実践研究報告の内容や進捗状況について交流する。 ・最終まとめとして、専攻全体で、各自の実践の経過、後期実習のまとめ、教職実践研究報告について交流する。実践研究フォーラムへの準備を行う。 	共同
	学校臨床実習Ⅰ（授業力開発）	<p>連携協力校もしくは置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。授業の現代的課題をテーマに、教育現場を臨的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を重点にした課題発見活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。</p> <p>巡回指導：4. 野崎武司、3. 有馬道久、8. 植田和也、10. 齋藤嘉則、11. 田崎伸一郎</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース 科目	授業力開発 コース 学校臨床実習Ⅱ（授業力開発）	<p>連携協力校もしくは置籍校において分散型（一部集中型）実習として履修する。授業の現代的課題をテーマに、教育現場を臨的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究を対象とし、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした臨床体験記録の作成が求められる。</p> <p>巡回指導：4.野崎武司、3.有馬道久、8.植田和也、10.齋藤嘉則、11.田崎伸一郎</p>	共同
	探究実習（授業力開発）	<p>[学部卒学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。授業力向上につながる構想力、実践力、省察力を一層みがくとともに、授業実践記録を通して客観的に分析できる力量が高められる演習を核とする。さらに、組織の活性化をいかに図るかについて、附属学校教員・大学教員も交えてリフレクションの多様な在り方について、運営しながら学ぶ機会とする。</p> <p>[現職教員学生履修] 附属学校において集中型実習として履修する。研究推進校としての授業研究の課題を理解し、授業研究に参画する。また附属学校教員の指導の観察実習を通して、担当学級配属の学部生の授業づくりや学級経営を焦点に、指導助言する。ミドルリーダーとしての役割を意識するとともに、初任者や若年教員を育てる指導の在り方や方法を追究する。</p> <p>巡回指導：8.植田和也、4.野崎武司、3.有馬道久、10.齋藤嘉則、11.田崎伸一郎、14.橘慎二郎、15.清水顕人</p>	共同
	授業力開発実習Ⅰ	<p>[学部卒学生履修] 連携協力校において分散型（一部集中型）実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。それに基づいた基本的な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。</p> <p>[現職教員学生履修] 連携協力校もしくは置籍校において分散型実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題発見活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、1学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。</p> <p>巡回指導：4.野崎武司、3.有馬道久、8.植田和也、10.齋藤嘉則、11.田崎伸一郎</p>	共同
	授業力開発実習Ⅱ	<p>[学部卒学生履修] 連携協力校において分散型（一部集中型）実習として履修する。配属学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心としながらも、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、的確な子ども理解に焦点を当てる。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。</p> <p>[現職教員学生履修] 連携協力校もしくは置籍校において分散型実習として履修する。担当学級での授業を焦点にした課題解決活動を中心とする。「新しい学び」を配慮した高度な授業構想力、授業実践力、授業省察力とともに、協働して働く力を養うことを目的とする。的確な子ども理解に基づいた一単元の授業実践・省察の授業研究が必須であり、2学期を通しての総合的省察、自己課題・学級課題の明確化を柱とした授業実践記録の作成が求められる。指導的立場の教員を育成する観点から、校内授業研究会の開催に向けての企画と校内交渉に取り組むことが求められる。</p> <p>巡回指導：4.野崎武司、3.有馬道久、8.植田和也、10.齋藤嘉則、11.田崎伸一郎</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 特別支援教育 コーディネーター コース	心理検査の理論と実際	<p>特別な教育的ニーズのある子どもを対象とした、代表的な心理検査を取り上げ、検査に関わる倫理、具体的な実施方法、関連する専門的知識の理解と習得をめざす。心理検査としては、WISC-IV知能検査、KABC-II心理教育アセスメント、DN-CASを取り上げる。特別支援教育に関わる心理検査の概要を理解した上で、それぞれの検査に関する背景思想や神経心理学的解釈に必要な基礎的理論について学ぶとともに、検査結果の活用と学校教育に関して理解を深める。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>6. 惠羅修吉/単独10回、共同5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関わる心理検査の概要と求められる倫理について説明する。 ・WISC-IV、KABC-II、DN-CAS検査について、その内容と実施方法について実習を通して修得させる。 ・検査結果に関する神経心理学的解釈について説明する。 ・学校教育に関連した検査結果の活用のあり方について理解を促す。 <p>26. 中島栄美子/共同5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・WISC-IV、KABC-II、DN-CAS検査について、その内容と実施方法について実習を通して修得させる。 ・検査結果に関する神経心理学的解釈について説明する。 ・学校教育に関連した検査結果の活用のあり方について理解を促す。 	共同
	個別の指導計画と個に応じた支援	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対して「個に応じた支援」を行う意義と必要性、学齢段階で必要となる支援領域・内容、学校・教室等での合理的配慮等環境整備のあり方を理解する。特別支援教育を進める上で重要なツールとなる「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義を理解し、作成方法と実施、評価・改善について習得する。「個別の指導計画」の作成事例について知り、グループワークを通じて「個別の指導計画」の作成を演習する。</p> <p>共同方式/全15回</p> <p>5. 武蔵博文/単独3回、共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものつまずきへの気づき、支援が必要となる領域と内容、学級や学校で支援を行う上での配慮事項について解説する。 ・「個別の指導計画」および「個別の教育支援計画」「相談支援ファイル」の意義と内容、活用方法について解説する。 ・9. 山本木ノ実と協働して、個別の指導計画の作成手順、ケース会議の実施、指導の手立ての工夫について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 <p>9. 山本木ノ実/単独3回、共同9回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の指導計画」を立案するために、個のニーズを知り発達課題を捉えた上で、長期・短期の目標を設定すること、個々の指導の手立てを明確にして、支援を具体化すること、および評価の方法・計画について解説する。 ・知的障害およびLD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害について、個別の指導計画の作成事例を示し、その実際について解説する。 ・5. 武蔵博文と協働して、個別の指導計画の作成手順、ケース会議の実施、指導の手立ての工夫について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 	共同
	行動困難と社会性の指導	<p>特別な教育的ニーズのある子どもの行動上のつまずきをどのように理解し、支援するのかについて理解を深める。まず、機能的アセスメントを用いた行動問題の指導と環境設定の方法について学ぶ。次に、社会的スキル訓練の意義と目的について理解するとともに、社会的スキル訓練の内容と方法について学習する。最後に、実践事例をとりあげてグループディスカッションを行い、それまでに学んだ事柄の理解を確かなものにする。</p> <p>分担方式/全15回</p> <p>5. 武蔵博文/単独6回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動上のつまずきの理解と支援について解説する。 ・機能的アセスメントを用いた行動問題の指導と環境設定について説明する。 ・実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 <p>7. 宮前義和/単独6回、共同3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的スキル訓練の意義と目的について解説する。 ・社会的スキル訓練の内容と方法について説明する。 ・実践事例をとりあげて、グループディスカッションを行う。 	分担

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 特別支援教育コーディネーターコース	特別支援教育コーディネーターの役割とリソースの活用	<p> 学校園での特別支援教育コーディネーターの役割として、特別な教育的ニーズのある子どもに気づいて学級の中で実態把握をすすめる、集団の中で個の特性への配慮した学級経営・教科指導の在り方を理解する、学級担任と協同して「個別の指導計画」を作成してその実行を支援する、校内委員会を運営して特別支援教育支援員等の校内の資源を活用する、特別支援学校のセンター的機能や教育・福祉・保健・医療等の地域のリソースとの連携をすすめる、保護者との相談をすすめて学校・学級担任との関係を調整し家庭への支援をすすめる等の方法を学ぶ。 共同方式／全15回 </p> <p> 5. 武蔵博文／共同15回 ・特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する指導支援のあり方について、関係法令、幼稚園教育要領・学習指導要領、通知や報告等から解説する。 ・小中学校での特別支援教育の進捗状況、小中学校の特別支援教育を充実する上での課題、関係機関との連携協力の在り方等について解説する。 ・9. 山本木ノ実と協働して、担任の学級経営・教科指導への支援、支援校内委員会の運営、地域の関係機関との連携について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 </p> <p> 9. 山本木ノ実／共同15回 ・特別な教育的ニーズのある児童生徒への具体的な指導や支援について、学級経営や教科指導での工夫や特別な配慮について解説する。 ・校内委員会の設置と運営の仕方、校内の資源を活用した支援体制づくり、地域における関係者や関係機関との連携、保護者相談の進め方について解説する。 ・5. 武蔵博文と協働して、担任の学級経営・教科指導への支援、支援校内委員会の運営、地域の関係機関との連携について演習を行い、各自の成果を発表させ、グループ討議を行う。 </p>	共同
	教職実践研究Ⅰ（特別支援教育）	<p> 主に、実習科目における教育実践と特別支援教育コーディネーターコースの理論科目をつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深めるとともに、各自の実践課題を明確にする。初回および最終回には、専攻全体での交流の場を設け、各自の実践の経過、前期の実習のまとめを行う。 共同方式／全15回 </p> <p> 6. 惠羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実／共同15回 ・初回のオリエンテーションにおいて、専攻全体で、各自の実践課題、前期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実習計画等の確認を行う。 ・グループ協議による事例検討会のスーパーバイズを行う。 ・事例検討会での協議方法について実践的に学ぶ機会とする。 ・前期の活動を総括させ、後期の実践課題に関して改善プログラムの作成を促す。 ・最終回に、専攻全体で、各自の実践の経過、前期実習のまとめについて交流する。 </p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教職実践研究Ⅱ（特別支援教育）	<p>主に、実習科目における教育実践と特別支援教育コーディネーターコースの理論科目とをつなぎ、理論と実践の往還から、学生各自の実践課題の意識化を図る。複数教員による集団指導とグループ協議を通して学生各自の実践課題を発展させるとともに、個々の実践課題を深める個別の指導を行う。実習での事例に関して、グループ協議における事例検討会を実施することで、特別な教育的ニーズのある子どもを対象としたアセスメントと指導のあり方について理解を深める。事例に関するアセスメントと指導を理論的に分析し、省察することで、その内容に関する分析を深める。その成果は、中間まとめと最終まとめとして専攻全体の発表会で報告し、最終的には教職実践研究報告としてまとめる。教職実践研究フォーラムへの準備を行う。</p> <p>共同方式／全15回</p> <p>6. 恵羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実／共同15回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回のオリエンテーションにおいては、専攻全体で、各自の実践課題、後期の実習の意義・目的、実習への取り組み方・実施計画等の確認を行う。 ・グループ協議による事例検討会のスーパーバイズを行う。 ・事例検討会での協議方法を修得し発展させる。 ・個別の実践課題に対応した個別指導を並行し、教職実践研究報告の作成に導く。 ・中間まとめとして、専攻全体で、各自の教職実践研究報告の内容や進行状況について交流する。 ・最終まとめとして、専攻全体で、各自の実践の経過、後期実習のまとめ、教職実践研究報告について交流する。実践研究フォーラムへの準備 	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コース科目 特別支援教育 コーディネーター コース	学校臨床実習Ⅰ（特別支援教育）	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨牀的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。</p> <p>スーパービジョン：6. 惠羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実、26. 中島栄美子</p>	共同
	学校臨床実習Ⅱ（特別支援教育）	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する教育現場を臨牀的に体験し、自己の取り組むべき教育課題の明確化を図る。学校臨床実習Ⅰを発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する基礎的な実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談及び個別指導を体験したうえで、部分的に発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標の見通しを持つことができる。</p> <p>スーパービジョン：6. 惠羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実、26. 中島栄美子</p>	共同
	探究実習（特別支援教育）	<p>前期を通して、相手先機関に合わせ随時実施する。附属特別支援学校で、知的障害児に対する生徒指導、授業の様子を参観して、支援環境の改善、支援の手立ての工夫、指導者の指導や援助の方法について学ぶ。発達障害外来のある医療機関、相談支援にあたる支援センター等での診察や相談の様子を知り、教育機関とは異なる立場の様子を知り、協同連携の在り方、ネットワークの築き方等の実践力の向上を図る。</p> <p>巡回指導：5. 武蔵博文、6. 惠羅修吉、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実</p>	共同
	特別支援教育指導実習Ⅰ	<p>特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</p> <p>スーパービジョン：6. 惠羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実、26. 中島栄美子</p>	共同
	特別支援教育指導実習Ⅱ	<p>「特別支援教育指導実習Ⅰ」を発展させる内容で、特別な教育的ニーズのある子どもに対するアセスメントと個別指導に関する実習を行う。特別支援教室「すばる」あるいは連携協力校等を実習の場として、来談者への教育相談、コンサルテーション、スーパーバイジング及び個別指導を体験したうえで、発達障害のある子どもへの個別指導を担当して、子どもの持つ問題点の分析・評価、個別の指導計画の立て方、実際の指導方法・技術について実習する。個別の指導計画の作成をとおして、子どもの実態に応じた短期目標、長期目標を設定することができる。</p> <p>スーパービジョン：6. 惠羅修吉、5. 武蔵博文、7. 宮前義和、9. 山本木ノ実、26. 中島栄美子</p>	共同